



# 昭和小

## 第21号

校長室便り  
文責  
生田 文明

### 稲のことは稲に学べ ～ようこそ地域の先輩～

二十三日（火）、四・五・六年生を対象に、ようこそ地域の先輩第三弾として、ファームたなべ代表の田辺正宜さんに、昭和校区の歴史、松田喜一先生の教え、農業の大切さ、命の大切さについて、子どもたちに語っていただきました。

大正十四年に南新地（昭和）干拓工事が終了し、翌昭和元年から松田先生の教えを受けながら、本校区（昭和）で理想農業が始まったこと。昭和十七・十九年には、堤防が決壊し、一時、船上で生活を余儀なくされたこと。平成十一年には、台風でガラス温室がすべて倒壊し、壊滅的な被害を受けたこと・・・。

しかし、このような幾多の困難の中でも、松田喜一先生の言葉「稲のことは稲に学べ、世の中の仕事は世の中に学べ」「人並なら、人並み、人並み外れにや外れぬ」「自分が変われば、世の中が変わる」この教えを絶えず思い起こし、実践し続けることで、今日まで歩んでくることができたことを話していただきました。穏やかな子どもたちへの語りかけの中にも、心にある熱い思いが伝わってくる内容でした。また、農業が担う役割について、食



料生産だけでなく、空気の浄化・地下水の涵養・心の癒やし・文化の継承など、その多面的な機能についても、教えていただきました。

「農業は難しくはない、大切なんだ。みんな大切にね。」子どもたちへこのメッセージ。理想農業をめざし、昭和に入植された初代の一六六戸、一一八四人の方々から五代目の昭和小の子どもたちへの、とても熱いメッセージとして、心に響きました。

さらに、命の大切さ、食の大切さを体験とおして学ぶために、田辺さんご自身が開発されたベビリーフ栽培キットを用い、コマツナ等の種まきを行いました。「稲のことは稲から学べ」の教えのごとく、子どもたちが、この栽培をおして、植物から学ぶことの意義や食の安全などについても理解してもらいたいと思います。

ご自身の経験をおして、地域・先人の素晴らしさ、農業の大切さ、そして命の大切さについて、多くのことを教えていただいた、ようこそ地域の先輩でした。

### 全国給食週間

二十四日（水）は、給食記念日です。

そこで、二十四日～三十日までの一週間を全国給食週間として、給食について知り、自身自身の食生活についての関心を高めるための活動が全国的に展開されているところです。



本校では、学校給食に関する図画・標語の作品づくり（ゆめタウン八代店で展示中）、健康安全委員会から、給食に関する関心を高めるための給食クイズや残さい調べの実施。また、学校栄養職員の方の島ノ江先生による、給食センターでの調理の様子や給食を作る際に注意していることについて、「感謝して食べよう」と題して、出前授業をおこないました。

授業に参加した一・二・三年生は、実際に調理で使う、鍋やしゃもじの大きさを見て驚き、調理の大変さを実感したようです。

多くの方々の思いが詰まった給食の一皿一皿、食材や給食センターの方々に感謝して、これからも給食をいただきますよう。

### 外国語科・外国語活動の 先行実施に向けて

四月から、五・六年生は、教科として外国語科が、週二時間。そして、三・四年生は、外国語活動として、週一時間の英語の授業が始まります。

それに備えての授業研修会を有田先生（市指導主事）とALTのアンドレア先生を二十四日にお迎えして実施しました。

今回の外国語科では、英語のシャワーをたくさん浴び、様々な活動をおして、楽しみながら英語表現になれることが大切です。まずは、教師自身が、ゲームをおして、英会話を楽しむことから始めました。

